

このコーナーでは、地域や学校で行われるイベント行事などを紹介します。

皆さんの身近で行われている楽しい催しなどありましたら、企画課広報統計係（☎52-2115）又はEメール（koho@town.minamifurano.hokkaido.jpまでお知らせください）。



舞台芸術公演を堪能（9月2日）

教育委員会主催による北海道巡回劇場が町内小学生を対象として、函館を拠点に活動している和太鼓等を使ったトラベリングバンド「ひのき屋」の公演が南富良野小学校体育館で行われました。

子ども達に芸術文化を身近に触れ合うことを目的に行われる本事業では、日本のみならず世界で活躍する「ひのき屋」のバンドパフォーマンスに圧倒されていた様子で、手拍子や立ち上がり踊りだす児童もいました。実際に大小様々な和太鼓に触れる機会もあり、集まった児童は終始楽しんでいました。



命の大切さを学ぶ（9月5日）

南富良野高校（野呂俊夫校長59人）で「命の大切さを学ぶ」集会が行われ、北海道交通安全被害者の会代表 前田敏章さんが生徒を前に自らの娘を交通事故を亡くした実体験について講演が行われました。「娘の死を無駄にしてほしくない」とのメッセージが込められた講演では、被害者の家族しか感じ取れない状況を語り、交通事故への注意などを話されていました。

生徒を代表して、佐々木樹君（3年生）からは「自分もいつ加害者被害者になるか、今後交通事故に遭わないためにも気を付けていきたい」と感想を述べていました。

受験を控え、南富高校を見学（9月3日）

来春に高校進学を控えた中学3年生を対象に南富良野高校の魅力を紹介しようと、同校で見学・説明会が行われ、地元南富良野中学校をはじめ富良野沿線市町村の生徒50名が参加しました。

学校紹介では、習熟度別学習や類型選択授業など学習上の特徴や、資格取得検定料の補助や通学費の助成制度、道内唯一カヌー部のある高校の特色など説明が行われ、実際の授業も見学しました。

また、在校生が学校行事や国際交流事業の様子や感想を紹介していました。



南富良野カヌー大会開催（8月31日）

南富良野カヌー大会実行委員会（新野和也実行委員長）が主催する「第5回南富良野カヌー大会」が落合の空知川特設カヌー競技場で開催されました。

大会には地元愛好者のほか札幌や旭川、帯広、三笠などからカヌー愛好者71名（エントリー68艇）が出場しました。約300mのコースに14ゲートを設けたスラロームと250mの激流を下りタイムを競うワイルドウォーターの2種目が各艇部門ごとに分かれ、出場者は巧みなパドル操作で難コースに果敢に挑戦していました。結果は【OC-1】コンバインドの部で落合の五嶋富恭さんが優勝し、2位に幾寅の大光明宏武さんが【ラフトレース】ワイルドウォーターの部では地元商工会青年部が2位に入るなど地元勢も活躍しました。



「第33回ふれあいフェスタ」多くの町民で賑わう（9月6日）

南富良野大乗会の主催によるからまつ園・こぎくら園・なんぶ〜香房の合同による「第33回ふれあいフェスタ」が保健福祉センターみなくろで行われました。幾寅保育所園児による踊りや、南富良野中学校、南富良野高等学校吹奏楽部の演奏、ゆかいな仲間の合唱団、施設利用者の皆さんによるハンドベルやダンスの披露、地元アマチュアバンドによるバンド演奏などが行われたり、利用者の皆さんもステージに加わって歌や踊りを披露していました。

また、会場では、町内外の協力団体による模擬店やバザー、農産物の加工品販売、各種作品の展示販売などが多数出店され、詰めかけた多くの町民や保護者などで賑わっていました。



3 大学合同学習交流会（9月10日）

本町千里大学と占冠村清流大学並びに新得町町民大学寿教室の3町の高齢者大学約110名における合同学習交流会が、保健福祉センターみなくろで開催されました。

午前中は、旭川市で活動している落語団体「旭笑長屋」の寄席が開催され、会場内は多くの笑いに包まれました。

午後からはグループに分かれ、みなみふらのSHCクラブゆっくの榊山悠氏を講師に招き、運動試験を鍛えるコーディネーショントレーニングを行い、元気に活動しました。



ふらの沿線スポーツフェスタ「ラフティング」を満喫（9月7日）

道北圏広域スポーツセンター協議会の主催によるスポーツフェスタが開催され、本町では、富良野沿線5市町村から7歳から55歳までの親子連れを中心に25名が参加して、ゴムボート4艇に分かれ、落合の空知川約6kmのコースを1時間半かけて下りました。

参加者はガイドの指示のもとでラフトボートをコントロールしながら、自然の景色を眺めながらラフティングを体験するとともに参加者相互の親睦交流を図っていました。

ツール・ド・北海道本町を駆け抜ける（9月13日）

国内有数の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道2014」が道央・道東地域を拠点に開催され、その第1ステージが千歳市から新得町まで194kmの区間で競技が行われ、午後2時ごろ落合地区を通過しました。

28回目を迎える本大会では、道内外及び海外から20チーム100名のレーサーが参加、カラフルなウェアを身にまとい、時速40kmのスピードで駆け抜ける迫力ある自転車レースに沿道から多くの町民が声援を送っていました。

